

サウロの激変

2022年7月24日

使徒の働き 9章19b～31節
ガラテヤ 1章13～24節

序：迫害者サウロの回心（先週）
今日はその後のサウロの活動

I. アラビアに退く ガラテヤ1・15～
御子を私のうちに啓示することをよしとされた神の召しを確認するため
人間的なやり方はせず、神の前に一人静まって、召しと恵みを受容
三人に相談しない、エルサレムの使徒たちに会いに行かない

II. ダマスコに戻る
福音宣教開始
メッセージ：イエスは神の子
諸会堂で（回心しなかったら、迫害の権限を行使していたはず）
キリスト教会弾圧の中心人物 ⇒ 主キリストのしもべ

サウロの急変をいぶかる人々 どうてい信じられない
捕縛して連行するための罠では？

サウロは霊的赤子 ⇒ 成長（キリストをあかしすることによって）霊の運動
信者の交わり
福音を伝えれば伝えるほど 力を増した（知識、体験、聖霊）
メッセージ：この方（イエス）はキリスト
人々（ダマスコに住むユダヤ人）をうろたえさせた

III. ダマスコを脱出 コリントII 11・32～33
3年後

伝道の対象であるユダヤ人の反感
殺害計画・陰謀
昼夜分かたず、嚴重な監視（町のどの門からも逃げられない）
サウロの宣教によって回心した人たち（彼の弟子たち）が、彼を逃がす
信仰の父への愛、苦難が信者をも強くたくましくした
城壁に接した自分の家の窓から、夜中に、かごに乗せ吊り降ろす

IV. エルサレムに行く
弟子たちの仲間（教会の交わり）になりたい／何としても試みたが拒否
∴彼は信者ではない、恐れ

仲介者バルナバ
サウロを使徒たちに引き合わせた
〃 について説明・弁護（回心は真実）・保証
①ダマスコ途上で復活のイエスに会った
②主が彼に語った（召し）
③ダマスコでイエスの御名（メシア）を大胆に宣べ伝えた

使徒たちに受け入れられ、交わった
ペテロと主の兄弟ヤコブ ガラテヤ 1・18～19

エルサレムでの宣教

信仰者の交わり
大胆なイエスのあかし
ギリシャ語を話すユダヤ人（殉教者ステパノもこのひとり）への伝道
サウロ殺害の計画（命の危険）
信者たちはサウロを港のあるカイザリアからタルソ（故郷）へ送り出す

V. 教会の進展・拡大 cf. 6・7

ステパノの殉教、エルサレム教会への激しい迫害
↓
ユダヤとサマリアへの宣教（by 散らされた信徒たち）
↓
教会弾圧・迫害の中心人物サウロの回心（ユダヤ人そして異邦人への宣教）

主の教会は一つ（31節の教会は単数）

ユダヤ、ガリラヤ、サマリア ……（地域は多数）
平安を保ち（迫害の嵐の中、試練を通りつつも）
主を恐れかしくみ（世の権力者、支配者以上に主なる神を恐れ）
聖霊に励まされて（信者の内に、教会の内に住まれ、導きと力を付与）
前進し続けた（後退や現状維持ではなく）
信者の数が増えていった（結果であって目的ではない／主の賜る結果）

VI. 結び

殉教者の血は教会の種子（イエス・キリストの血の贖いが信じる者を救う）
ステパノ

信者のしるし

- | | |
|----------------|--------|
| ①祈り（悔い改め、とりなし） | 霊の呼吸 |
| ②証し：福音＝イエスはメシア | 霊の運動 |
| ③みことば | 霊の食物・糧 |
| ④奉仕（神・みことば・教会） | 愛の実践 |

聖徒たち

- ・サウロは悔い改めて（祈り）イエスを信じた（信仰告白・バプテスマ）
- ・サウロはその救い主を宣べ伝えた
- ・サウロは苦難や試練を覚悟した／実際に命の危険にさらされた
- ・サウロは聖徒たちに助けられた

宣教は聖霊と聖霊に従順する信仰者との共働により進められる
活動に対しては何らかの結果が生じる

私たち各々、そして教会に対してどんなに大きなことをしてくださったかを
思い起こし、これから主がなさろうとしておられることに、自分をささげて
あづかってゆけますように